資料４

関市の地域公共交通に関する市民意見交換会　意見要旨

団体名：あゆのせ協議会
開催日時：令和7年12月14日（日）　11時～
開催場所：鮎の瀬ふれあいセンター
参加人数：13人
出席職員：篠田主幹、久保

開催目的、関市の公共交通の現状と課題を説明し、意見交換を実施

●市民からの主な意見・要望

運賃

・マーゴへの実証実験では、デマンドタクシーの運賃（片道 600 円、往復 1200 円）が高く、岐阜バスのワンデーパス（1000 円）と比較して割高感が大きい。
・乗り合わせても料金が安くならない点を改善してほしい。
・デマンド型やタクシー型の交通サービスを導入する場合、距離が異なる地域間でも同一料金とすることが可能なのか。

利便性

・誰のための足を確保するのか、ターゲットを明確にすることにより課題が見えてくる。実際は、車を持たない人の生活の足の確保になろうと思われるが。
・娯楽目的の移動よりも、通院や買い物など生活に必要な移動手段の確保を優先すべき。
・デマンド交通の存在自体が知られていない。
・バスは「小回りが利かない」「バス停まで遠い」といった不満がある。
・病院や買い物など、生活に不可欠な移動手段として、特に病院へのアクセスを最優先に考えてほしい。
・現在のデマンドタクシーは予約や運行時間に制限が多く不便。特に、病院は帰りの時間が読めないため予約しづらい。予約方法を検討しては。
・一般タクシーのような、もっと自由度の高い形態でないと利用されないのでは。時間の制限はない方がいい。

利用促進

・デマンド以前に、タクシーを利用すること自体ハードルがある。
・タクシーを利用したことのない人のために、乗り方教室では実際の車両を用いた説明や、具体的な予約方法など、分かりやすい情報提供が必要。
・元気なうちから公共交通の利用方法を学ぶ機会を設けるべき。
・インターネットでの時刻表や利用案内を充実させてほしい。
・他の自治体の事例も参考に、利用者のニーズに応えられる運行形態を研究してほしい。

・年間利用回数を設定したタクシー利用券（チケット）を交付するなど、利用者が柔軟に移動手段を選択できる制度を検討してはどうか。

関市の地域公共交通に関する市民意見交換会　意見要旨

団体名：富野ふれあいのまちづくり委員会
開催日時：令和8年1月16日（金）　18時～
開催場所：富野ふれあいセンター
参加人数：19人
出席職員：久保、中島

開催目的、関市の公共交通の現状と課題を説明し、意見交換を実施

●市民からの主な意見・要望

デマンドバスの改善

・行き先が、市役所、ターミナル、中濃厚生病院のみ。もっと色々な目的地に行けるようにしてほしい。ふれあいセンターへ行けない。
・わかくさ富野線は運行本数が少なく、利用者も少ない。運行本数も多いデマンドタクシーの導入など、より効率的な運行方法がよいのではないか。
・バス停までが遠い。
・予約システム、情報の周知が十分ではない。高齢者の認知度を上げる必要がある。高齢者サロンなどで。
・バスの乗客が少ないため地域でのライドシェアを検討してみては。
・高齢者には、家まで来て希望の病院まで送ってくれる仕組み（マッチング型）を作ってほしい。

関上之保線について

・坊地、上大野からバスの停留所が遠い。
・同じ富野地区なのでデマンドバスが通って行き来ができると良い。

料金体系と運行エリアの柔軟性

・利便性が高いなら、100 円でなくても良い。
・デマンドタクシーの運行エリアが瀬尻・広見、下有知と限られているため、富野も含めてより自由度の高い移動を可能にするため、エリアの拡大をしては

通学時の利用について

・富野小学校の小規模特認校制度の開始に合わせて、関上之保線、デマンドバスが通学に利用できるとよいのでは。
・現在のダイヤでは時刻が合わないため、登下校に使えるようダイヤ調整してほしい。

●都市計画課から

・富野地区内での移動需要や、デマンドバスという運行形態の課題感がわかった。新しい公共交通計画では、より利便性の高いものとなるように考えていきたい。

関市の地域公共交通に関する市民意見交換会　意見要旨

団体名：田原みらいづくり委員会
開催日時：令和7年12月22日（月）　20時～
開催場所：田原ふれあいセンター
参加人数：22人
出席職員：篠田主幹、久保、大鹿

開催目的、関市の公共交通の現状と課題を説明し、意見交換を実施

市民からの主な意見・要望

デマンドバスの利便性向上

・予約方法の簡素化: 電話予約だけでなく、QR コードなどデジタル化された予約方法の導入を検討すべき。特に若年層や今後の高齢者層を考慮し、10 年・20 年先を見据えたシステム構築を要望。
・運行ルートの柔軟化:既存のデマンドバスはコースが固定されており、バローや中濃病院には行けても、美濃や鵜沼駅など地域外の目的地へは行けない現状の改善。
・利用者の要望に応じて目的地を柔軟に設定できる運行形態を要望。乗降ポイントを増やし、自宅近くでの乗降を可能にすること。
・待ち時間の短縮: 現状の予約制では待ち時間が長くなる傾向にあるため、利便性向上の観点から待ち時間の短縮が求められる。
・乗り換えの簡素化: 現在、特定の目的地（鵜沼駅、マーゴ、臼井医院、大阪屋）へ行くには乗り換えが必要な場合があり、これを不便と感じている。乗り換えなしで目的地まで行けるような運行を検討すべき。
・利用者への周知徹底: デマンドバスの利用方法や利便性について、住民へのより詳細で分かりやすい周知を要望。自治会等を通じて、まだ情報が行き届いていない層へも積極的にアプローチすべき。
・説明会の開催：地域で開催している高齢者の集まり（田原みんなのおうち）に、市の担当者にも来てもらい、デマンドバスの乗り方を説明し、理解を深めたい。
・運行時刻：病院の診察時間は読みにくく、帰宅時間が合わないことがあるため、病院利用に対応したデマンドバス（病院専用や柔軟な運行）の導入を検討してほしい。

運行形態の見直し

・駅伝方式の導入: 路線を短く区切り、車両を乗り継ぐ「駅伝方式」を検討することで、運行時間の短縮や効率化を図れるのではないか。
・運転手確保の課題: 運転手不足が深刻化している現状を踏まえ、運転手の確保策（特に

大型免許不要な小型車両の活用）も検討課題。
・ライドシェアの検討: 事故責任問題等の課題はあるものの、高齢化社会における移動手段の一つとして、民間の協力を得たライドシェアの導入を視野に入れるべき。
・巡回バスの検討：地域内を柔軟に巡回する小型の交通（送迎バスのような地域交通）を導入してはどうか

●都市計画課から
・鵜沼線について:利用者が少なく岐阜バス路線が過去 2 度廃止された経緯を踏まえ、再運行の再開は極めて難しい現状がある。

関市の地域公共交通に関する市民意見交換会　意見要旨

団体名：くらちふれあいまちづくり委員会
開催日時：令和7年12月23日（火）　18時30分～
開催場所：倉知ふれあいセンター
参加人数：17人
出席職員：篠田主幹、久保、大鹿

開催目的、関市の公共交通の現状と課題を説明し、意見交換を実施

●市民からの主な意見・要望

運行エリアと目的地に関する要望

・美濃方面へのアクセス:マーゴ以外にも、バローやオークワ（美濃市）などへも行ける運行エリアの拡大を検討してほしい。
・病院へのアクセス: 中濃病院だけでなく、地元の病院にも行けるようにしてほしい。
・倉知地区の南側：坂道が多く、100～200m の距離でもバス停が遠く感じる。

運行システム・サービスに関する要望

・予約方法の改善:電話予約だけでなく、QR コードなど、デジタルでの予約方法を検討してほしい。特に将来的な利用者の世代（10 年、20 年後）を考えると、デジタル化は必須。現行のデマンドバスはアナログで予約できてしまうため、システム導入が進んでいない。
・運賃の適正化:タクシー車両を使った実証実験では、往復 1200 円の負担は高いと感じる利用者が多かった。高齢者が利用しやすい運賃設定（例：往復 300 円～500 円）を要望。
・利用者の理解度向上: デマンドバスの利用方法やシステムが分かりにくい。もっと周知して、利用者に理解しやすく、利用しやすいようにしてほしい。
・運行システムの改善：利用しやすい運行方法にしたらどうか。例えば、タクシーのように「必要な時に必要な場所へ行ける」フリー乗降型の、自由度の高い運行。
・運行モードの転換：利用者実績から見ると、小金田線と千疋線も小型車両での運行が良いのでは。
・オペレーター機能：柔軟な予約の対応、高齢者の予約支援を行うオペレーター機能を充実させてほしい。
・交通サービスのあり方：運転手不足が進む中で、車両規模の見直しなどの個別対応だけでなく、ライドシェアのような新たな仕組みの活用も含め、免許制度など制度面から交通サービスのあり方を見直す必要があるのではないか。

地域交通に関する意見

・マーゴへのターミナル設置: 現在の関シティターミナルに需要を感じないため、利用者が多く、需要が見込まれるマーゴにターミナルを設置してはどうか。

公共交通のあり方に関する提言

・費用対効果と市民負担: 少子高齢化等の問題があり、多額の税金が投入されているため、赤字をいかに少なくするかの視点で、市民の負担に見合うサービス提供をすべき。ライドシェア等の利用など抜本的な改革が必要

関市の地域公共交通に関する市民意見交換会　意見要旨

団体名：西部ふれあいのまちづくり推進委員会
開催日時：令和7年12月18日（木）　19時～
開催場所：西部ふれあいセンター
参加人数：10人
出席職員：篠田主幹、久保、中島

開催目的、関市の公共交通の現状と課題を説明し、意見交換を実施

●市民からの主な意見・要望

植野地区児童の通学手段の確保について

・子どもたちの通学の便を良くするための方策を考えてもらえないか。
・植野地区の路線を金竜小学校まで延伸し、児童がバス通学できるようにできないか。
・ただし、金竜小学校の児童を送迎するため、バス路線変更、乗降ポイントや道路幅等クリアしたとしても、保護者の負担の問題で難しいとされた経緯があった。（植野区調べ）

既存路線の改善提案

・わかくさ千疋線の特定便（2 便目、4 便目、5 便目）を金竜小学校前を通るルートに変更してはどうか。児童だけでなく、免許返納を考えている高齢者にも診療所通いなどメリットがある。
・移動手段がないため、ふれあいセンターでのイベントに、植野・千疋地区の高齢者が参加できない。普段も、小金田診療所や西部支所に行くルートが欲しい。
・小金田地区内で循環するバスルートを構築してはどうか。
・速達性をあげるため、千疋大橋から大平台団地を経由するルートの走行は困難とされているが、小型車両であれば可能ではないか。

公平性と採算性に関する意見

・わかくさ小金田線はまだよいが、千疋線は不便である。公平ではないと指摘。
・保護者による送迎や徒歩通学など通学方法が異なる中で、バス通学を導入した場合の公平性について考える必要があるとの意見があった。
・採算性だけで判断するのではなく、住民の生活支援という視点も必要である。

地域住民の意見の重要性

・路線を市が決めるのではなく、地域住民の意見も必要ではないか。

デマンド運行について

・イベント時の高齢者の足に使えるのか。

●都市計画課から

・現状の路線は、当時の地区の要望を取りまとめ、市役所・中濃厚生病院への路線となってい

る。時間が経過したため、改めて地区の意見を取り入れた路線を再編していきたい。